

【配点】 ①・②・③・④・⑤ 各2点×25 ④ 6点 ⑤ 8点 その他 各4点×9

1 上司 2 日課 3 カ士 4 貯金 5 固まる

6 生産 7 歴史 8 栄養 (8「栄養」も可) 9 じこう 10 さんみやく

2 1 ご 2 し 3 ず 4 ろ 5 わ

3 1 ウ 2 ウ 3 ウ 4 ア 5 ア

4 1 鳥おどし 2 かかすこと 3 A イ B エ C ア

4 スズメが、人ののすか、たに似たか、かしを  
 ほんもの、の、すか、たに似たか、え、て、お  
 どろい、た、り、お、そ、れ、た、り、  
 (4 同意可)

5 雨 1 ごい 2 エ 3 ウ

5 1 ウ

2 兵隊 1 あて 2 ウ 3 イ

4 子どものころ、大事に飼っていかれた  
 子が、役場の、人につれて飼っていかれた  
 (4 同意可)

5 イ 6 ウ

1 (漢字の書き取り・読み取り)

1 「司」の「口」の部分をしつかりと三画で書こう。2 「日課」とは「毎日決めてすること」という意味である。3 「力士」の「士」の横ぼうは上を下よりも長く書くこと。短くすると「土」になってしまう。4 「貯金」の「貯」の右側は「守」ではない。正しく覚えておこう。5 「固まる」は特にむずかしくはないが、くにがまえも、中の「口」の部分もしつかりと三画で書くこと。6 「生産」はこれからたくさんのお音異義語と区別していかなければならないことばなので、意味もしつかりと覚えていこう。7 「歴史」は「歴」の「がんだれ」の中の形や「史」の最後のはじめるところを正しく覚えておこう。8 「栄養」の「栄」の上の形はカタカナの「ツ」のように書く。真ん中をたてにまっすぐ書かないように気をつけよう。9 「時候」とは「四季それぞれの気候」という意味で、それに合わせたあいさつが日本語ではたくさんある。手紙を書くときのマナーのひとつである。10 「山脈」とは一つの山ではなく、いくつかの山が連なっているものである。

2 (擬声語・擬態語)

1 「ごろごろ」は「雷鳴のとどろく音」などをあらわす擬声語、また「ねころがっているさま」などをあらわす擬態語であるが、1では擬声語の方が答えとなる。2 「しんしんと」は「雪などがしずかにふるさま」をあらわす擬態語である。3 「うずうず」は「ある行動をしたくて、じっとしてられないさま」をあらわす擬態語である。4 「うろろうろ」は「あてもなくあちこち歩き回るさま」をあらわす擬態語である。5 「わいわい」は「さわがしくしている音」をあらわす擬声語である。擬声語や擬態語を勉強するときはそのことばのイメージを持つことを意識して覚えていこう。

3 (修飾語)

長い文章を正しく読むために、ことば同士をつながりを正しく理解できるようにしたい。かかることばは、語順を並べかえてそれを受けることばのすぐ前に入れてもつながりがおかしくならないので、まちがったものについては確認しておくこと。感覚的に解けるようになるまでトレーニングしてほしい。

4

1 本文終わりから二行目に「これ(かかし)を『鳥おどし』としてつかうようになった」と書かれている。また、本文全体を読んでも「鳥おどし」が現在のかかしの役割である前提で書かれていることが読み取れる。  
2 直後の文に「ことばから、そんなたとえが生まれたのだらうと思われませう」と書かれている。  
3 (A)には前の内容とは反する内容が後に書かれていることから「しかし」が入る。(B)は話題が変わるところなので「ところで」が答えになる。(C)には、直前の内容を「雨ごいの目的」と直後で言いかえているので「つまり」が入る。  
4 直前の「スズメは、それを、ほんもの人間とまちがえて、おどろいたり、おそれたりするでしようか」という部分を指しているのはわかるだらう。ただし、この部分にある「それ」という指示語を言いかえることに注意しよう。  
5 「スズメおどしの役につかわれたのではない」ならば、いったい何のためにつかわれたのか。それを説明しているのがこの文章である。「雨ごいの目的」がつかめていないと、この文章で説明したかったことが読めていないことになる。  
6 空らんの直前に「それは」とあるのだから、この指示語が指している内容をまず見る。すると「みのと、かさをつけて」いたすがたを指していることがわかる。それは「雨にぬれているすがた」である。また、「なぜ、そんな(雨にぬれている)かっこうをしているのか」という質問には、もうちょっと、あとで答えることにしよう」とあり、三行後の段落から、雨ごいの目的について説明されている。「雨にぬれているすがた」をしている理由の説明がきちんとなされているということである。  
7 直前の文で説明されたことを正確に言いかえたものを答えればよい。アを入れると日本語としておかしくなる。

5

1 「おばあちゃん」が子どもの時に飼っていたネコの「ミーちゃん」がつかれていかれた話をする中で、「おばあちゃん」の母親(母ちゃん)から、「たまちゃん、心配せんでもだいじょうぶよ」と声をかけられたと言っている。「おばあちゃん」は「たまちゃん」である。「ちよちゃん」は「おばあちゃん」の友人、「蘭」は「おばあちゃん」の孫、「佳斗」は「蘭」の友人である。  
2 本文終盤で「佳斗」が「でも、ネコとか犬の毛皮をどうするの?」と聞いたのに対して「蘭」が「兵隊のコートのえりとか、飛行機乗りの帽子の耳あてに使ったらいい」と返している。ア「もしくならたら」イ「たぶんくだらう」ウ「まるでくように」エ「かならずしもくない」がそれぞれセットになる。  
3 呼応の副詞の問題である。副詞と、うしろに続くことばとをセットで覚えよう。ア「もしくならたら」イ「たぶんくだらう」ウ「まるでくように」エ「かならずしもくない」がそれぞれセットになる。  
4 線④をふくむ会話部分を読むと、「あのときのことを思い出してしまふ」ことが原因で「おばあちゃん」はネコを飼うことに反対したとわかる。「ミーちゃん(ネコ)」を役場の人につれていかれたことがマイナスの記憶として「おばあちゃん」の心の傷になっているのである。そこを中心に解答を組み立てていこう。  
5 「間に合う」ということばには「時間におくれない」という意味のほかに「十分に足りる」という意味もある。5では「十分に足りる」の方が答えとなる。意味調べをして意味が複数出てきた場合は機械的にすべて書き写してしまふのではなく、どれが本文の文脈に合うか考えるようにしよう。  
6 線⑥の前で「おばあちゃん」が「今度あんなこと(大事に飼っていたネコをつれていかれそうになること)があつたら、絶対に渡さない」と怒っていて、それに対して「蘭」は「おばあちゃん」の肩を抱いてやさしいことばをかけて、「おばあちゃん」の気持ちを落ち着かせようとしているとわかるのでウが適当である。「蘭」が役場の人にネコを渡したのではないのでアは不適当である。「蘭」は「おばあちゃん」をやさしく肯定することはをかけていて、うんざりしているとはいえないのでイは不適当である。「おばあちゃん」がネコを飼うのに反対していることに対して「蘭」が反発する描写はないのでエは不適当である。

以上